

2007 年度達成状況の概要

1 教育

- ・ 『知の継承体』として、築き上げてきた知を教授する教育システムの再構築を図り、『知の創造体』を担う高度な教養、専門的な知識及び国際的な視野を備えた指導的人材を育成する。

1-(1) 大学教育の根幹となる教養教育の充実

- ・ コミュニケーション能力を高める英語教育を強化するため、平成 20 年度から外部検定試験 (TOEFL) を 1 年次カリキュラムに導入することを決定した。また、平成 21 年度には 1 年次の英語を週 1 コマから 2 コマに増強することを決定した。
- ・ 学部における海外インターンシップ制度のパイロット事業として、シリコンバレー学生インターンシップを実施するとともに、東北大学スタディ・アブロード短期語学研修を実施した。
- ・ 教育に対する強い情熱と高い識見を備えた定年退職教授を「総長特命教授 (教養教育)」として雇用し、教養教育の充実を図る制度を平成 20 年 3 月に制定した。あわせて、候補者 3 人を選考し、平成 20 年 4 月から配置する。
- ・ 「総長特命教授 (教養教育)」の所属組織である教養教育院を平成 20 年 4 月に設置する。

1-(2) 知を創造できる専門教育・大学院教育の充実

- ・ 国際高等研究教育院と国際高等融合領域研究所による国際高等研究教育機構を平成 19 年 4 月に設立した。

1-(3) 新たな教育システムの開発

- ・ 教育系情報機能推進プロジェクト・チームを平成 20 年 2 月に設置し、効果的かつ効率的な高度情報型教育システムの整備及び運用に係る具体案の検討を開始した。

1-(4) 学生支援体制の充実

- ・ 第 1 回ホームカミングデーを平成 19 年 10 月に開催し、卒業生による企業説明会を実施した。

1-(5) 意欲的な学生が受験する入試戦略の展開

- ・ 高校生対象の大学説明会を従来からの東京地区に加え、開拓の可能性のある関西地区でも実施した。
- ・ A0 入試及び推薦入試の合格者に対する入学前教育について、各学部を実施状況調査を行うとともに充実強化を要請し、平成 20 年度入試合格者から実施学部・学科が増加した。

2 研究

- ・ 『知の創造体』として、戦略的独創研究と長期的視野に立つ基盤研究推進のために東北大学独自の最先端の研究体制の再構築を図り、世界トップレベルの研究成果を創出する。

2-(1) 研究中心大学「東北大学」の研究基盤の強化

- ・ 世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラム(WPI)として国内で 5 つの拠点が採択され

たが、その内の一つとして本学が採択され、原子分子材料科学高等研究機構を平成 19 年 10 月に設立した。

- 21 世紀 COE プログラムの考え方を継承し国際的に卓越した教育研究拠点の形成を目指したグローバル COE プログラム拠点に、平成 19 年度は 5 拠点が採択された。
- 本学独自の新たな整備手法により、生命科学プロジェクト総合研究棟を建設（平成 20 年度に着工する予定）することを決定した。

2-(2) 新機軸研究へのチャレンジ

- 13 件の 21 世紀 COE 研究教育拠点プロジェクト、戦略的研究拠点育成プログラム、4 件の魅力ある大学院教育イニシアティブなど卓越した研究・教育拠点群の研究者を中核にした国際高等研究教育機構を平成 19 年 4 月に設立した。
- 医工学連携を基盤とした医療機器及び医療材料並びに細胞治療、創薬等に関する基礎研究の成果を臨床応用までの一貫した支援及びトランスレーショナル・リサーチを担う人材育成を目的として、東北大学未来医工学治療開発センターを平成 20 年 2 月に設立した。

2-(3) 国際研究拠点としての研究の連携

- T. I. M. E. (Top Industrial Managers for Europe) に平成 19 年 10 月に加盟した。T. I. M. E. はパリに事務局を置くヨーロッパの工学系高等教育機関のコンソーシアムで、ダブルディグリー・プログラムを中心に教育の国際交流を積極的に推し進めている。東北大学は、慶應義塾大学とともにアジアからは初めて加盟が認められた。
- フランスの国立中央理工科学学校リヨン校、国立応用科学院リヨン校と日仏ジョイントフォーラム及び第 4 回国際産学連携フォーラムを開催し、共同宣言並びにジョイントラボラトリーに関する MOU (Memorandum of Understanding) を締結した。
- 米国代表事務所ニューヨークオフィスを開設した。また、中国代表事務所はシニアリサーチャー 3 名の体制に整備した。

3 社会貢献

- 「世界と地域に開かれた大学」として、東北大学の人的・知的資源を広く社会に還元して、人類社会全体の発展に貢献する。

3-(1) 世界最高水準の大学としての基本的貢献

- 英語教育の充実、総長特命教授制度の制定、教養教育院の創設などの教養教育の改善、国際高等研究教育機構の設立などの取組を進めた。
- 本学の学生と中国の学生との交流の場を提供するため、「東北大学サマープログラム 2007」を実施し、大学間学術交流協定を結んでいる中国の主要大学から学生を受け入れた。
- 経済産業省の「アジア人財資金構想」により、外国人留学生を対象として就職支援を行う「高度実践留学生育成事業」を開始した。

3-(2) 地域社会との連携強化

- 防災に関する研究成果を市民に知ってもらうため、さまざまな分野の研究者が参加する「防災科学研究拠点グループ」を立ち上げ、一般市民向けのセミナーを開催した。

- 江戸東京博物館及び仙台市博物館において 100 周年記念展示「東北大学の至宝－資料が語る 1 世紀」展を開催し、附属図書館と博物館の所蔵資料を公開した。また、附属図書館所蔵の「漱石文庫」を中心とした 100 周年記念展示「夏目漱石展」を江戸東京博物館及び仙台文学館で開催した。
- 本学史料館において、100 周年記念展示「東北大生の 1 世紀」を開催した。
- 学都仙台コンソーシアムの「単位互換事業」、「サテライトキャンパス公開講座事業」に年間 143 科目の授業科目、15 コマの公開講座を提供するなど、参加 25 機関と連携しコンソーシアムの充実に向けた活動を行った。

3-(3) 産学官の連携強化

- 現行の産学官連携推進本部や特定領域研究推進支援センターの機能点検を行い、再整備の基本方針を策定した。
- ベンチャー起業支援のため、東北イノベーションキャピタルとの業務連携、東北大学 OB が結成する「技術士青葉会」との提携、みやぎ産業振興機構と連携したハンズオン指導體制の構築などを行った。
- 大学発ベンチャー支援に関する Q&A を作成し、ホームページに掲載した。

3-(4) 研究・教育成果の積極的発信

- 東北大学機関リポジトリ (TOUR) のコンテンツの拡充を進め、Research and Education、Rare Collection 共に 10,000 件以上を登録した。
- 仙台放送のニュース番組内で「シリーズ東北大学 100 年物語」として本学の研究成果を紹介した。また、東北大学・東日本放送共同企画番組「東北大学の新世紀」として、地上波テレビ、衛星波テレビ、Web サイトで研究成果を紹介した。
- 毎月 1 回のペースでサイエンスカフェを開催し、人文・社会科学を含む本学の研究成果を発信した。
- 東北大学インターネットスクール (ISTU) を用い、特別講義、記念シンポジウムなどを Web ページにアップロードし、広く一般に公開した。

4 キャンパス環境

- 『知の創造体』、『知の継承体』として本学が展開する多様な教育研究活動を支える国際水準のキャンパス環境を整備する。

4-(1) 世界最高水準の大学にふさわしいキャンパスの構築

- 学内財源を活用した本学独自の整備手法を検討し、新たな建物整備計画を策定した。
- 高い確率で起こるとされる宮城県沖地震に備え、キャンパス内の建物の耐震診断調査とその取りまとめを行い、建物の耐震等に関するハザードマップを作成した。
- キャンパス内のアメニティの向上を図るため、川内キャンパスの食堂・サブアリーナ棟及び駐輪場等の移設に着工するとともに、川内厚生会館を改修することを決定した。
- 青葉山新キャンパスの環境アセスメントの手続きは順調に進展し、評価書を仙台市に提出した。開発許可を受けた後、直ちに造成工事に着手することとしている。

- 「大学のシンボル」にふさわしいキャンパスを実現するため、片平キャンパスマスタープランを検討・策定した。
- 2004年に策定した川内キャンパスマスタープランについて、仙台の地下鉄東西線事業に伴う機能補償工事などが具体化されたことに伴う修正を行った。
- 高性能電子顕微鏡、MRI装置を含む研究設備、機器を広く学内外の利用に供するため、テクニカルサポートセンターを設置した。

4-(2) 環境・安全に配慮したキャンパスの整備

- 環境保全と安全管理を一元的に管理する組織の設置について検討を行い、平成20年4月に組織を暫定設置し、業務分析とそれに伴う必要な体制及び人員の検証を行った後、本格設置を目指すこととした。
- 高い確率で起こるとされる宮城県沖地震に備え、地震対策基盤プロジェクト・チームを設置し、地震によるリスクの洗い出し、緊急に対応すべき事項等の整理を行った。

4-(3) 大学運営の基盤となる情報通信・メディアの整備

- 情報基盤整備の推進体制の機能点検を行うとともに、ネットワークシステム、統合認証システム、東北大学ポータル構築とグループウェアの導入、業務システムを柱とする「東北大学情報化推進アクションプラン」を策定した。
- 附属図書館における電子ジャーナル整備経費について、総長裁量経費とは別枠の全学的基盤経費として措置することを決定した。

5 組織・経営

- 『知の経営体』へと変革し、本学を取り巻く環境の変化や時代の要請に対応できる財政基盤をはじめとする経営基盤を確立する。

5-(1) 全学運営システムの機能強化

- 理事・副学長・部局長に対し達成目標（ミッション・ステートメント）を明示した評価を導入し、勤務実績を反映した処遇を行った。また、適切なコミュニケーションを図るため、部局長連絡会議に加え、部局長懇談会を開催した。
- プロジェクト・チーム報告など総長室の活動を理事・副学長会議や部局長連絡会議等において適時報告し、その内容をホームページに掲載し構成員の理解を求めた。また、平成20年2月から3月にかけて、総長を中心に井上プラン2007の進捗状況や今後の重要課題についての意見交換を全部局で行った。
- 人件費の在り方プロジェクト・チームを設置し、平成20年2月に今後の人件費削減の基本的方針等を決定した。

5-(2) 財政基盤の強化

- 基盤的な経費を的確に見積り、それらを別枠予算とするシステムを検討するため「全学的な基盤経費化プロジェクト・チーム」を設置し検討を行い、全学の理解を得て、平成19年12月に新たなルール（全学的基盤経費）を策定した。

- 海外インターンシップを含む全学教育などを充実させるため、100周年記念事業募金を原資とする「東北大学基金」を平成20年4月に創設する。
- 診療報酬請求における看護師配置基準（7対1看護体制）を平成19年6月にクリアし、診療報酬請求の増額を実現した。

5-(3) 大学を支える人材の確保・活用を図れる人事システムの構築

- ディスティンクイッシュトプロフェッサー（教育・研究・社会貢献の各分野において先導的な役割を担う教授）制度を平成20年1月に制定した。
- 定年退職した教授を「総長特命教授」（専任教員）とし、教員組織の充実及び教育研究の質の向上を図る制度を平成20年3月に制定した。
- 部局長の給与処遇について、指定職本給表を廃止して職責手当を適用し、勤務実績の処遇への反映を平成19年12月期から実施した。
- 事務職員等の評価の実施について、事務職員管理職に対する第一次試行を平成19年7月から実施した。人事評価制度準備検討委員会で試行結果を分析の上、技術職員を含めた第二次試行を平成20年度に実施する。
- 理事・副学長・部局長に対し、達成目標（ミッション・ステートメント）を明示した評価を導入した。

5-(4) 東北大学ネットワークの形成

- 史料館において100周年記念展示「東北大生の1世紀」を平成19年7月に開催した。また、「東北大学の至宝」展、「文豪・夏目漱石」展において所蔵資料を一般公開した。図書館企画展「絵葉書タイムトラベル」を図書館本館ロビーにおいて開催した。
- 本学の同窓会、現旧の教職員、在校生、卒業生、修了生、在校生の家族等が一体となった大学運営を目指して東北大学校友会（仮称）を平成19年10月に設立した。
- 100周年キャンペーン・催事は盛大に行われ成功裏に終了した。また、100周年記念事業募金を原資とする東北大学基金を平成20年4月に創設する。記念建造物は平成20年8月に竣工予定で、百年史は刊行計画に従って今後も編集・刊行を継続していく。

5-(5) 中期目標・中期計画への適切な対応

- 平成19年7月に総長室と評価分析室が共同で中期目標期間評価ワーキンググループを設置して準備を開始した。